

「やまなしの教育振興プラン」の進捗状況について

国の教育振興基本計画の策定を受け、平成21年2月、平成21年から平成25年までの5年間の計画期間とする本県教育振興の基本計画である「やまなしの教育振興プラン」(以下「プラン」という。)を策定しました。

このプランでは、多様化する県民ニーズや社会・経済情勢の変化に対応した実効性のあるものとするため、進捗状況の点検及び見直しを行うこととしています。

点検に当たっては、目標とする指標に沿ってどのように教育行政が執行されているのか自ら評価を行い、毎年その結果を公表することとしています。

そこで本年度は、統計調査結果等を基に、プランに掲げる50項目の指標ごとに、更にはその項目を再区分した90に及ぶ指標ごとに、点検と評価を行いました。

本年度の点検の結果は、次のとおりです。

進捗率100%以上(目標を達成したもの。)	9項目
進捗率60以上 100%未満	7項目
進捗率40以上 60%未満	9項目
進捗率20以上 40%未満	20項目
進捗率 0以上 20%未満	30項目
進捗率0%未満	14項目
未実施(調査なし。)	1項目

これによると、既に進捗率100%以上となり目標を達成した指標がある一方で、目標値はもちろんのこと計画策定段階の現況値(平成19年度値)から後退してしまった指標も見受けられます。

本年度の点検は平成20年度の現況値の進捗状況であり、これは、そもそもプランの計画期間前の数値ではありますが、本県教育振興の基本計画であるプランにおける本県教育の「今」を把握する重要な手がかりとなります。

この点検結果を踏まえ、今後の教育行政の機動的かつ弾力的な執行に努めながら、プランの着実な実施と更なる推進に取り組んで参ります。

担当課	平成20年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H20年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
義務教育課	H20年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「将来の夢や目標を持っている」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 86.7 %	小 90 %	小 87.5 %	24.2	H19年度と比較すると、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合が若干増加している。今後さらに将来の「夢」や「希望」、そして「目標」について考える機会を増やしていく。
			中 73.0 %	中 80 %	中 73.7 %	10	
高校教育課	H21年 8月	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「将来の夢や目標を持っている」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	高 70.4 %	高 80 %	高 72.4 %	20.8	H19年度と比較すると、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合が2%増加している。体験的な教育活動を中心に、今後さらに将来の夢や目標を抱かせる教育を推進していく。
高校教育課	H21年 3月	・就業体験を実施している高校の割合	高 65.6 %	高 80 %	高 67.7 %	14.6	H20年度の数値には、1日医療体験等は含まれていないが、これを含めると約97%の高校で就業体験を実施していることになる。今後さらなる実施率の向上を図っていく。
高校教育課	H21年 3月	・企業等で実習体験をしている生徒の数	高 150 人	高 300 人	高 542 人	261.3	地域産業の担い手プロジェクト（工業・農業）事業が本格的に展開されたため、生徒数が増加した。通常の授業の中でもさらに取り組んでいく。
高校教育課	H21年 3月	・企業等の研修に参加した教員の数	高 162 人	高 180 人	高 166 人	22.2	地域産業の担い手プロジェクト（工業・農業）事業が本格的に展開されたため、研修に参加した教員数が増加した。
義務教育課	H20年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「国語の授業の内容はよくわかる」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 81.8 %	小 90 %	小 82.9 %	13.4	H19年度と比較すると、小中ともにやや向上している。さらに新学習指導要領の趣旨を生かし、魅力的な言語活動を行い、楽しみながら言語能力を向上させる充実した授業づくりをすすめていく。
			中 72.1 %	中 80 %	中 73.7 %	20.3	
高校教育課	H21年 8月	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「国語の勉強がどの程度分かるか」の設問に「よく分かる」「だいたい分かる」と回答した生徒の割合	高 57.7 %	高 70 %	高 61.7 %	32.5	H19年度との比較において、微増ながらも改善、向上している。今後も、新学習指導要領の趣旨を生かし、言語活動の充実を生かすべく、そのことを自覚した実践、工夫した授業づくりをすすめていく。
義務教育課	H20年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「算数（数学）の授業の内容はよくわかる」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 79.2 %	小 90 %	小 81.4 %	20.4	H19年度と比較すると、「授業内容が分かる」と回答した児童生徒の割合が増加している。今後子どもの理解を図る授業の展開に努めていく。
			中 62.1 %	中 70 %	中 63 %	11.4	
高校教育課	H21年 8月	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「数学の勉強がどの程度分かるか」の設問に「よく分かる」「だいたい分かる」と回答した生徒の割合	高 51.3 %	高 70 %	高 58.9 %	40.6	H19年度と比較して改善傾向にある。様々な場面を使ってさらに授業改善に向けての啓発を図っていく。
高校教育課	H21年 8月	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「英語の勉強がどの程度分かるか」の設問に「よく分かる」「だいたい分かる」と回答した生徒の割合	高 45.5 %	高 60 %	高 56.3 %	74.5	H19年度との比較において、改善傾向にある。今後も分かる授業を推進するためにも、知識活用型指導の工夫や生徒の学習意欲を向上させる取組等を通じて、目標の達成を目指していく。
義務教育課	H21年11月	・学習指導要領に示された目標に沿った指導と評価を実践するために、各教科毎に学力を観点別にとらえた評価規準を整備している学校の割合	小 91.2 %	100 %	小 100 %	100	評価規準は、全ての学校で整備された。今後も維持していく。
高校教育課	H21年 3月		中 89.6 %		中 100 %	100	
高校教育課	H21年 3月		高 92.5 %		高 94.8 %	30.7	各校において、評価規準の整備はかなりの割合で進んでいる。完全達成を目指して、各校への指導を徹底していく。

担当課	平成20年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H20年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
義務教育課	H20年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「学校の授業時間以外に普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか」の設問に「全くしていない」と答えた児童生徒の割合	小 3.6 % 中 9.3 %	小 2 % 中 5 %	小 3.6 % 中 9.3 %	0 0	H19年度と比較すると、「全くしていない」と回答した児童生徒の割合は、同じであった。家庭学習の定着をうながすよう取り組んでいく。
高校教育課	H21年 8月	・「山梨県公立高等学校教育課程実施状況調査」における「学校の授業以外に、1日だいたいどのくらい勉強しますか」の設問に「全く、または、ほとんどしない」と答えた生徒の割合	高 28.2 %	高 15 %	高 25.1 %	23.5	H19年度と比較すると、改善されてきている。授業と家庭学習の効果的な連携を図るための課題の工夫を通して、目標を達成するよう努めていく。
義務教育課	H20年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「総合的な学習の時間の勉強は好きですか」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合	小 82.4 % 中 68.5 %	小 90 % 中 80 %	小 79.8 % 中 68.5 %	-34.2 0	H19年度と比較すると、小学校では「好き」という児童がやや減少した。今後、新学習指導要領への移行にともなって、外国語活動等学習内容の見直しを図りつつ、子ども達に本来の目標に沿った力が身に付くよう努めていく。
高校教育課	H21年 6月	・教員や生徒により小中学生への授業等を実施している高校の割合	高 62.1 %	高 80 %	高 65.5 %	19	H19年度と比較すると、実施している高校は18校から19校へわずかながら増加している。今後も研修会等を通じて働きかけていく。
義務教育課	H20年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「学校のきまりを守っている」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 88.8 % 中 87.1 %	90 %	小 88.8 % 中 89.3 %	0 75.9	H19年度と比較すると小学校では同じであるが、中学校では増加の傾向がある。いずれも全国平均より高いため、今後も規範意識の定着を図れるよう取り組んでいく。
高校教育課	H20年 8月 H21年 8月	・「山梨県高等学校教育課程実施状況調査」における「学校の規則を守っている」の設問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合	高 85.2 %		高 89.6 %	91.7	H19年度と比較すると4.4%増加している。高校での教育活動のあらゆる場面で規範意識を高める指導を推進していく。
義務教育課	H21年 4月	・道徳の授業を地域住民や保護者に公開している学校の割合	小 34.8 中 27.1	70 %	小 51.7 中 41.9	48 34.5	H19年度と比較すると割合は増加している。今後もさらに必要性を周知していく。
義務教育課	H20年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「人が困っているときは、進んで助けている」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 82.4 % 中 77.6 %	90 %	小 84.3 % 中 78.8 %	25 9.7	H19年度と比較すると「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合が若干増加している。いずれも全国平均より高いため、今後も人とのかわりを大切にしたい指導の定着を図れるよう取り組んでいく。
義務教育課	H20年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「海、山、湖、川などで遊んだ経験がある」の設問に「何度もあった」「時々あった」と回答した児童の割合（小学校） ・「全国学力・学習状況調査」における「海、山、湖、川などに行って、自然の素晴らしさを感じた経験がある」の設問に「何度もあった」「時々あった」と回答した生徒の割合（中学校）	小 84.8 % 中 86.4 %	90 %	小 85.5 % 中 81 %	13.5 -150	H19年度と比較すると中学校において減少している。自然体験の大切さを指導できるように取り組んでいく。
高校教育課	H20年12月	・文化部の活動を充実させるために行われている高校芸術文化祭への参加者数	18,416 人	20,000 人	18,964 人	34.6	H19年度と比較すると548人の増加である。21年度においても参加者数の増加に向けて取り組んでいく。
義務教育課	H21年11月	・「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における公立学校の「いじめの認知件数」	小 251 件 中 319 件	小 200 件 中 230 件	小 226 件 中 329 件	49 -11.2	H19年度と比較すると、小学校は減少し、中学校は増加している。今後さらにきめ細かく対応する中で、中学校の減少に向けて取り組んでいく。
高校教育課	H21年11月		高 169 件	高 100 件	高 137 件	46.4	H19年度から32人の減少である。未然防止、早期発見・対応に向けてさらに取り組みの充実を図っていく。

担当課	平成20年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度 の現況値	H25年度の 目標値	H20年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）	
義務教育課	H21年 8月	・「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における公立学校の「不登校児童生徒」の人数	小 188 人	小 160 人	小 145 人	153.6	県の施策と学校現場での取り組みが功を奏してH19年度より減少した。今後もきめ細かい対応を推進する中で、この減少の流れを定着させていく。	
高校教育課	H21年11月		中 995 人	中 700 人	中 855 人	47.5		
義務教育課	H21年11月	・「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における公立学校の「暴力行為」の件数	小 6 件	小 3 件	小 24 件	-600	H19年度と比較すると、小・中学校ともに増加している。各校で原因の分析を行うなど、積極的な取り組みを進める中で発生件数を抑えていく。	
高校教育課	H21年11月		中 135 件	中 90 件	中 211 件	-168.9		
義務教育課	H20年 8月	・「全国学力・学習状況調査」における「家や図書館で、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか」の設問に「全くしない」と答えた児童生徒の割合	小 15.4 %	小 10 %	小 14.6 %	14.8	H19年度の値と比較すると、小学校では、わずかであったが減少した。しかし中学校ではやや増加している。全体の読書量は増えていることから（県「国語力、読解力に関する調査」21.1実施）中学校では、読む量が多い子どもと読まない子どもとの差が大きくなっている。不読者をなくす取り組みが急務である。	
高校教育課	H21年 8月		中 32.5 %	中 20 %	中 32.9 %	-3.2		
スポーツ健康課	H21年 1月	・「山梨県新体力テスト・健康実態調査」で授業以外で週3日以上運動・スポーツを実施している小学生（5・6年生）の割合	小 48.2 %	小 65 %	小 47.5 %	-4.2	各学年ごとの割合の数値が若干ではあるが低下し、進捗率がマイナスになっている。このため各種研修会や講習会等で「運動する子とそうでない子の二極化傾向」について大きな課題として周知し、運動をしない子、したくてもできない子に対して運動をする機会や場を提供するなど時間・空間・仲間の「三問づくり」を推進していく。	
スポーツ健康課	H21年 1月	・「山梨県新体力テスト・健康実態調査」で小学生（5年生）のボール投げの平均値のピーク時（昭和56年）の値に対する割合	小 81.7 %	小 90 %	小 81.9 %	2.4	H17年度からの全体的な新体力テストの実施、H18年度からの一校一実践運動の取り組み等により、体力に関する関心も高まりがみられるので、今後も継続して取り組んでいく。	
スポーツ健康課	H21年 4月	・薬物乱用防止教室を実施している学校の割合	中 29.2 %	中 60 %	中 34.4 %	16.9	薬物乱用防止教室実施調査を行い、各県立学校及び各市町村教育委員会に対して実施を依頼した成果がみられるので、今後も継続して取り組んでいく。	
スポーツ健康課	H21年 1月	・「山梨県新体力テスト・健康実態調査」で児童生徒が朝食を摂取している割合	高 87.5 %	高 100 %	高 87.5 %	0		
スポーツ健康課	H21年 1月	・「山梨県新体力テスト・健康実態調査」で児童生徒が朝食を摂取している割合	小 91 %	小 95 %	小 91.1 %	2.5	H17年度からの全体的な健康実態調査の実施、H18年度からの一校一実践運動の取り組み等により、健康に関する関心も高まりがみられるので、今後も継続して取り組んでいく。	
スポーツ健康課	H21年 5月		・食に関する指導全体計画を作成している学校の割合	中 84 %	中 90 %	中 84.1 %		1.7
新しい学校づくり推進室	H21年 3月		・一人ひとりの児童生徒の障害の状態や発達段階等に合わせた学習指導を行うための「個別の指導計画」を作成している小中学校の割合	高 78.3 %	高 90 %	高 79.4 %		9.4
新しい学校づくり推進室	H21年 3月	・一人ひとりの児童生徒の教育的ニーズに応じ、関係機関が連携して適切な指導及び必要な指導を行うための「個別の教育支援計画」を作成している小中学校の割合	小 64.2 %	100 %	小 82.4 %	50.8	平成19年度に教育委員会で作成した食育指導手引きの活用が進んできていることや、関係各課の取り組みにより、食育に対する意識が高まっているので今後も指導計画の必要性を周知し、計画作成の促進を図っていく。	
新しい学校づくり推進室	H21年 3月		中 53.8 %		中 68.5 %	31.8		
新しい学校づくり推進室	H21年 3月	・一人ひとりの児童生徒の教育的ニーズに応じ、関係機関が連携して適切な指導及び必要な指導を行うための「個別の教育支援計画」を作成している小中学校の割合	小 57.2 %	70 %	小 76.2 %	148.4	特別支援学級での作成率が高まり、目標値を達成しているが、通常の学級に在籍する該当の児童・生徒に対して、作成率を高めるとともに、指導計画が活用されるよう働きかける。	
新しい学校づくり推進室	H21年 3月		中 39.8 %		中 72.9 %	109.6		
新しい学校づくり推進室	H21年 3月	・一人ひとりの児童生徒の教育的ニーズに応じ、関係機関が連携して適切な指導及び必要な指導を行うための「個別の教育支援計画」を作成している小中学校の割合	小 46.2 %	70 %	小 74.3 %	118.1	同上	
新しい学校づくり推進室	H21年 3月		中 35.7 %		中 70.8 %	102.3		

担当課	平成20年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H20年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
新しい学校 づくり推進 室	H21年 4月	・県立特別支援学校高等部の新卒生徒の就職割合	14.6 %	20 %	13.5 %	-20.4	厳しい雇用情勢のため昨年度を下回った。キャリア教育を推進させるとともに、学校と労働関係機関が連携して進路指導等の充実を図っていく。
義務教育課	H21年 3月	・省エネ・省資源活動等に取り組んでいる学校の割合	小 87.8 %	100 %	小 99.5 %	95.9	H19年度と比較すると、リサイクル活動や省エネ・省資源の取り組みは、増えている。今後、一層の取組の推進を図っていく。
高校教育課	H21年 3月		中 84.4 %		中 90.2 %	37.2	
高校教育課	H21年 3月		高 75.9 %		高 86.2 %	42.7	
高校教育課	H21年 3月	・福祉の心を培い、福祉の実践力を高めるための福祉教育に取り組む高校の割合 ※ 小・中は100%達成済	高 92 %	高 100 %	高 97.0 %	62.5	ほとんどの学校で、福祉教育に関連する活動はおこなわれているが、それを意識化することにより、福祉に対する意識が更に高まっていく。一層の取り組みの推進を図っていく。
義務教育課	H21年 9月	・コンピュータや提示装置等を活用して指導する能力を持つ教員の割合	小 56.8 %	小 70 %	小 57.7 %	6.8	学校への情報機器の整備が進まない状況の中で、わずかではあるが増加している。臨時交付金による情報機器の整備にあわせて取り組みを続けていく。
高校教育課	H21年 9月		中 56.3 %	中 70 %	中 57.9 %	11.7	
高校教育課	H21年 9月		高 64.3 %	高 80 %	高 61.9 %	-15.3	H19年度と比較すると、教員の割合は減少しているものの、コンピュータや提示装置等の活用を実施している高校は20校から21校へと増加している。新たに導入するワゴンプロジェクター等を活用して改善を図っていく。
高校教育課	H21年 6月	・大学教員による授業を取り入れている高校の割合	高 69 %	高 80 %	高 72.4 %	30.9	H19年度と比較すると、実施している高校は20校から21校へとわずかではあるが増加している。今後も必要性を周知していく。
義務教育課	H21年 2月	・教育活動に係る自己評価に対する学校関係者評価を実施・公表している学校の割合	小 39.9 %	100 %	小 50.2 %	17.1	文部科学省の委託事業である「平成21年度学校評価の充実・改善のための実践研究」を柱として、各地区協議会の開催等により実施率が向上した。ガイドブックの配布により、さらなる向上のための取り組みを続けていく。
高校教育課	H21年 6月		中 43.8 %		中 51.6 %	13.9	
義務教育課	H21年 2月	・保育所や幼稚園との交流活動を年に3回以上行った小学校の割合	小 39 %	小 60 %	小 47 %	38.1	交流活動を実施している小学校数は、着実に増えている。今後は、年間計画に位置付けた継続的な活動が行われるよう支援していく。
高校教育課	H21年 3月	・乳幼児とのふれ合い体験を実施している高校の割合	高 79.3 %	高 100 %	高 84.8 %	26.6	学校の地理的環境を考慮しつつ協力施設の開拓などを行い、さらにより多くの学校が実施できるよう努力していく。
社会教育課	H21年 3月	・様々な知識や技能を持つ地域住民が学校や家庭、地域に貢献できるための仕組みづくりに取り組んだ市町村の割合	0	100 %	21.4	21.4	各地域の実情に応じた学校を応援する仕組みが全市町村に整備されるようH20年度から取り組んでいる。
義務教育課	H21年 9月	・学校のホームページで情報提供を行っている学校の割合 ※ 高校は100%達成済	小 62.2 %	80 %	小 76.2 %	78.7	小・中学校ともホームページ開設率が向上している。全国の数値では小学校82.7%、中学校81.6%で、本県の値はやや下まわる。学校の情報提供の場として、さらに拡大を図っていく。
		中 60.2 %	中 68.4 %		41.4		

担当課	平成20年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H20年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
生涯学習文化課	H21年 4月	・「やまなしまなびネットワークシステム」で提供している学習機会や人材等の学習情報へのアクセス件数	836,370 件	1,000,000 件	958,696 件	74.8	学習情報の更新に努めたこと等によりアクセス数が増加したと考えられる。今後も情報更新に努めていく。
生涯学習文化課	H21年 4月	・県、市町村、大学、民間団体等が連携し、多様な学習機会を提供する「キャンパスネットやまなし」に入学した人の数（累計）	3,098 人	5,000 人	3,457 人	18.9	H20年度の入学者は360人とH19年度入学者（448人）より減少した。今後さらに制度について周知を図り、入学者の増加に努めていく。
生涯学習文化課	H21年 4月	・「キャンパスネットやまなし」において所定の単位を取得し、奨励賞を交付された学習者の数（累計）	1,154 人	2,300 人	1,474 人	27.9	入学者（累計）の増加とともに、奨励賞交付者数も増加しており、H20年度は、320人に交付した。今後も、学習活動への取り組みを働きかけていく。
社会教育課	H21年 3月	・様々な知識や技能を持つ地域住民が学校や家庭、地域に貢献できるための仕組みづくりに取り組んだ市町村の割合	0	100 %	21.4	21.4	各地域の実情に応じた学校を応援する仕組みが全市町村に整備されるようH20年度から取り組んでいる。
スポーツ健康課	H20年 7月	・いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、総合型地域スポーツクラブを設置している県内市町村の割合	53.6 %	100 %	68 %	31	平成20年度新たに4クラブが創設され、これまでの設立済み市町村は10市1町1村となっている。平成21年度には6クラブ、平成22年度には3クラブが創設される見通しである。未設置の市町村への働きかけを行っていく中で、平成25年度までには実質設置率100%を目指す。
スポーツ健康課	平成20年度調査なし	・週1回以上スポーツを実施している成人の割合	32.4 %	50 %	%	%	平成20年度調査は実施していない。地域総合型地域スポーツクラブの設置率増大に取り組む中で、スポーツを手軽にできる環境づくりを行い、目標達成に向けスポーツ実施率を高めていく。
スポーツ健康課	H20年10月	・国民体育大会における個人、団体の上位8位以内の入賞数	83 人・団体	100 人・団体	92 人・団体	52.9	H20年度の大分県では、高校生を中心とした少年種別での入賞者が多く、ジュニアアスリート・チーム強化事業の成果と判断できる。今後さらに一貫指導体制の充実を図り継続的な支援をしていく。
スポーツ健康課	H20年 8月	・選手、指導者がアンチ・ドーピングへの意識啓発のための講習会に参加している県内競技団体の割合	70 %	100 %	55 %	-50	H19年度は、講習会への参加競技団体が多かった。これは各競技団体の監督等指導者の受講が多かったためである。今後、選手を対象に毎年各競技団体が受講するよう働きかけていく。
スポーツ健康課	H21年 3月	・トップレベルの競技者の養成・確保のための一貫指導体制を確立している競技団体の割合	55 %	100 %	55 %	0	H21年度までは、40競技団体のうち22団体での確立を目標としていたが、H22年度からは、40競技団体が取り組んでいるように支援していく。
生涯学習文化課	H21年 5月	・県民文化ホールで開催した主催事業への入場者数	17,951 人	20,000 人	15,723 人	-108.7	H19年度は、周年事業が重なり、入場者数が多かったことが影響している。H21年度から管理運営者が変更になったため、より積極的な事業展開を指導していく。

担当課	平成20年度 現況値の公表時期	指標の概要	H19年度 の現況値	H25年度 の目標値	H20年度 の現況値	進捗率 %	実施状況（今後の取り組み）
義務教育課	H21年 4月	・県立博物館と連携して教育活動を行っている学校の割合	小 40 %	50 %	小 43.2 %	32	小・中学校ともに連携の機会は増えている。一層の活用を促していく。
高校教育課	H21年 1月		中 34 %		中 42.4 %	52.5	
			高 31 %		高 34 %	15.8	連携を行った学校数は増加している。今後も一層の活用を促していく。
生涯学習文化課	H21年 4月	・県民の文化芸術活動の発表及びその鑑賞の場である県民文化祭への参加者数	218,973 人	222,000 人	228,732 人	322.4	H19年度と比較すると来場者数が約1万人増加した。今後も引き続き参加者の増加に努めていく。
学術文化財課	H21年 2月	・県内の国・県指定文化財の件数	660 件	690 件	660 件	0	平成20年度は2件指定したが、2件の登録解除もあり指定件数に変更はなかった。引き続き文化財の指定を行い、保存と活用を図っていく。